

地域運動部活動推進事業 実践研究事業報告

南アルプス市櫛形中学校

1 概要（はじめに）

（1）国の考え方

令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組むために、全国各地の拠点校（地域）において実践研究を実施し、研究成果を普及することで、休日の地域部活動の全国展開につなげることをしている。

（2）県の考え方

県としても休日の段階的な地域移行に向け、実践研究により得られた研究成果を普及することにより、教員の負担軽減と生徒にとって望ましい持続可能な部活動につなげることをし、拠点校で研究していくこととした。

2 目的

令和5年度以降の休日の運動部活動の段階的な地域移行に向け、本事業から得られた成果や課題を明らかにするとともに、学校等に広く周知することにより、教員の負担軽減と生徒にとって望ましい持続可能な運動部活動につなげる。

3 研究内容

- ・休日部活動の地域移行に向けた各地域への実践研究
- ・地域部活動における運営団体の組織づくり
- ・地域人材の確保など

4 研究成果の検証

- ・教員の負担軽減について
- ・運営団体の組織づくりについて

5 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革

（1）部活動の意義と課題

- ・部活動は教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場である。
- ・これまでの部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとって望ましい指導を受けられない場合が生じる。
- ・中教審答申や給特法の国会審議において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

(2) 改革の方向性

- ・部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築する。
- ・部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築する。
- ・生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備する。

6 活動のパターン

- ・地域人材が指導する。活動は地域スポーツ活動となる。
- ・地域人材と顧問が協力して指導する。段階的に地域スポーツ活動へと移行していく。
- ・兼職兼業をしている教員が指導する。活動は地域スポーツ活動となる。

7 楡形中学校の特徴

創立67年の歴史があり、生徒数530名の伝統的に部活動が大変盛んな学校です。平成23年全国中学校駅伝競走での全国優勝をはじめ、多くの部活動が全国・関東大会に出場するなど実績を残しています。

今年度は運動部が14、文化部が5の合計19の部活が活動しており、それ以外に3つの季節部や特設部が時期や大会によって活動しています。全校生徒の94%が部活動に所属して、自らの可能性を伸ばすべく主体的に活動しています。6%の生徒は校外のクラブ等で活動をしています。(野球・サッカー・水泳・柔道・空手・ピアノなど)

教職員31名がそれぞれの部活動の指導にあたっていますが、19の部活動に対して31名のため、複数の部を担当する教職員がいます。基本的に1つの部活動に対して、複数の教職員を配置しているため、土日については連携をしながら休みをとれるように、年間計画を立てて負担軽減を図っています。

8 地域運動部活動指導者

昨年度より「休日部活動の地域移行に向けた実践研究事業」の対象校となり、5名の配置をしていただきました。昨年度は初めての試みで準備期間も短かったこともあり、5名のうち3名は兼職兼業で小学校や中学校の講師として勤務をしている方に指導員を依頼しました。

今年度はより地域の人材を活用することに重点を置き、兼職兼業は1名のみとし、4名は教職員ではない方に依頼をしました。1名の教職員も小学校に勤務であり、楡形中学校の教職員ではありません。5名の方はすべて楡形中学校に勤務していない方に依頼しましたが、楡形中学校区に在住されている方もしくは本校の卒業生で、学校の教育目標や部活動の活動方針、地域や学校の状況を理解していただき、学校に寄り添い活動を支えていただきました。

令和3年度

剣道部	
指導者	河野 亮
競技歴	12年
指導歴	5年 剣道3段

卓球部	
指導者	甘利 肇
競技歴	32年
指導歴	5年

バスケットボール部 女子	
指導者	河野 佑太郎
競技歴	13年
指導歴	1年 小学校教諭

弓道部	
指導者	依田 幸男
競技歴	2年
指導歴	18年 弓道初段 中学校講師

ソフトボール部	
指導者	中嶋 一進
競技歴	13年 (野球)
指導歴	1年 中学校教諭

令和4年度

剣道部	
指導者	河野 亮
競技歴	12年
指導歴	6年 剣道3段

卓球部	
指導者	甘利 肇
競技歴	32年
指導歴	6年

バスケットボール部 女子	
指導者	河野 佑太郎
競技歴	13年
指導歴	2年 小学校教諭

弓道部	
指導者	大和田 輝哉
競技歴	47年
指導歴	15年 公認弓道指導員

バスケットボール部 男子	
指導者	茂手木 一斗
競技歴	18年
指導歴	4年 公認E級コーチ



9 各部の実践研究

○実践研究【男子バスケットボール部】

種 目：男子バスケットボール	
参加人数：18名	
指導者名：茂手木一斗	学校顧問名：片山敬太 舟久保孝樹
部活動の頻度：平日4日、休日1日	部費の負担：なし
【活動目標】・県大会ベスト8	

○活動内容

1 活動場所 楡形中学校体育館
2 指導の工夫 ・動画を導入して客観的に技能を振り返ることを行っている ・統計からスカウティングを行っている
3 学校との連携 ・週末の活動を中心に指導 ・顧問とは違う視点でアプローチを図る

4 成果

(顧問)

- ・指導者の数が増えて部員一人ひとりへのケアが充実した。また練習の効率化が図れた
- ・関わりが広がり我々にとっても生徒に細かく指導ができ、ありがたかった

(指導者)

- ・顧問の負担軽減につながる
- ・顧問とは違う新鮮なアプローチができる

(生徒)

- ・新しいスキルを教えてもらえた
- ・他校の情報や違ったアドバイスを受けられる
- ・学校で教わる技術や考え方とは違ったことを知れる
- ・更なる向上につながった
- ・顧問とは違う視点から見てくれた
- ・新鮮で内容が入りやすかった

(保護者)

- ・新しいことに挑戦できたことで意欲的に取り組めた
- ・より細かい指導があり、毎回楽しく通っていた
- ・顧問とは違う指導を受けられる
- ・人数が多いため、指導やメンタルケアが助かった

6 課題

(顧問)

- ・地域移行という、地域という概念や部活動との線引きが不明瞭で実態に則した取り組みか不安がある
- ・すべての部に同じ状況を作り出せないと感じる

(指導者)

- ・休日しか行けないので、先生たちと指導方針がずれないようにしていく必要がある

(保護者)

- ・土日の活動が増え良かったが、家族の時間は長期休み以外ほぼなかった
- ・顧問の指導の方が意欲向上につながっていた

7 今後の方向性について

(指導者)

- ・学校教育や子どもの成長に寄与していきたい

(生徒)

- ・どんな感じになるかがわからないから不安
- ・部活動という形で楽しめる活動もあるから難しい
- ・ほかの人と関われるのは良いがもめごとなどがありそう
- ・違う関りが増え、できることが増える

(保護者)

- ・顧問に専門性があるとは限らないので、子供たちにとってはプラスになる存在になると思う
- ・地域に移行することで身近に活動できる場所が増えそう

- ・ 具体的案がなく、判断がつかないため
- ・ 送迎面の負担がある
- ・ 技術面での向上は期待できるが、教育的な指導や人間性の成長ものぞんでいる部分があるためなんとも言えない
- ・ 教員の負担も承知しているが、部活動では地域の仲間と一緒に高めあえる大切な場と感じているため、どのような形でも保障して頂きたい
- ・ 地域移行に関しての様子がわからないため、子供たちが混乱したり理解できたりするかが不安
- ・ 先生方の負担が減るのは良いことだと思う
- ・ 移行にあたり十分な基盤ができているのか
- ・ 学校の活動だから頑張れているため、意欲低下するように思う
- ・ 部活動は学校生活への良い影響もある
- ・ 子供も親も指導法でとまどうことが多くなると思う
- ・ 金銭的な部分がどうなってくるかが気になる

○実践研究【女子バスケットボール】

種 目：女子バスケットボール

参加人数：9名

指導者名：河野佑太郎

学校顧問名：竹内太郎 矢崎愛子

部活動の頻度：平日4日、休日1日

部費の負担：なし

(大会前は土日の場合あり)

【活動目標】

- ・ 県大会ベスト4
- ・ 自分のプレーに自信を持つ

○活動内容

1 主な活動時間

土曜日(日曜日) 8時00分練習開始 11時00分終了

2 活動場所

楡形中学校体育館

3 指導の工夫

- ・ 生徒の自主性を重んじる観点から、練習内容は自分達で考えさせるようにしている。また、生徒の考えや一人ひとりのプレースタイルを尊重するよう心がけている
- ・ 練習をする中で、改善点があれば、指導・助言をする

4 学校との連携

- ・ 毎月指導者と顧問で予定を確認し、来校可能な日に指導を行っている

5 成果

(顧問)

- ・ メンバーが少なく生徒と一緒に活動してもらえる指導者がいると助かる

(指導者)

- ・ 自分が持つ経験や知識をベースに、プレーがよりよくなるような助言をすることができた

(生徒)

- ・指導がわかりやすかった

6 課題

(顧問)

- ・意思疎通の難しさがあると感じる
- ・回数が少なく生徒との距離がなかなか縮まらない
- ・毎週末指導していただけるような支援体制を整備してほしい
- ・時々では生徒も指導者にどう接するべきか困ってしまうのではないかと思う

(指導者)

- ・生徒との人間関係の構築に難しさを感じた。

(生徒)

- ・指導者と顧問の違いがあまりわからなかった
- ・指導回数が少なかった

(保護者)

- ・どういう方かわかるともっと安心できる

7 今後の方向性について

(顧問)

- ・毎週土日にしっかり指導者が指導に当たれるようにしてほしい
- ・毎週末指導していただけるような支援体制
- ・大会運営、クラブとの関わり、部活所属のみの生徒が嫌な思いをしないような体制を整えてほしい

(生徒)

- ・地域移行になるとどうなるかがまったくわからない
- ・先生達も大変だと思し良いと思う
- ・違う指導者から新しいことを学べる
- ・地域との交流にもつながる

(保護者)

- ・学校の仲間と部活動することで仲良くなり、学校生活も楽しくなると思うので部活動は続けてほしいという気持ちがある

○実践研究【男子卓球部】

種 目：卓球

参加人数：20人

指導者名：甘利肇

学校顧問名：佐久間和之

部活動の頻度：平日4日 休日1日

部費の負担：個人負担はなし

【活動目標】

- ・卓球の楽しさを知り、公正さ、規律を尊ぶ態度や克己心を培い、県大会出場を目指す
- ・卓球部の活動を通して健全な心と体を兼ね備えた生徒の育成に努める
- ・競技力の前にまず人間力を高められるよう、日々の活動の中で指導していく

○活動内容

1 主な活動時間

土日 8:30～11:30 または 13:00～16:00

2 活動場所

橿形中学校体育館

3 指導の工夫

- ・それぞれ練習で意識することを言葉と動作で伝え、意識させる
- ・生徒たちの練習パートナーになり、質の高い練習になるよう心掛ける

4 学校との連携

- ・現状、顧問の先生と連携しているから指導できているが、顧問の変更等、今後の運営面で不安を感じる

5 成果

(顧問)

- ・部員数が増えた際に、指導者と分担することで効率よい指導ができた

(指導者)

- ・専門的技術指導で生徒たちの技術が向上している
- ・生徒たちが技術の向上で大会参加など積極的になった

(生徒)

- ・普段とは違う指導を受けることができた
- ・指導がわかりやすかった
- ・先生の負担が減るから
- ・より細かい指導を受けることができた

(保護者)

- ・知識や経験ある指導者からのアドバイスは子供たちにとって良いと思う
- ・地域に根付いた方たちと交流ができた
- ・新鮮味があった

6 課題

(顧問)

- ・休日でいただいた指導を平日の部活動で継続できないことがある

(指導者)

- ・部活動の時間内に指導が全員に行き渡らない時があった
- ・技術の習得に個人差が出てしまったので、練習の工夫が必要
- ・種目によっては指導者の人数を増やしていかないと全員に専門的な技術指導が行き渡らないと思う

7 今後の方向性

(生徒)

- ・自分の学校で活動が行われるのが良い
- ・知らない人が多くなることには不安がある
- ・地域の方と練習でき上達できるし、交流もできる

(保護者)

- ・学校で行うのが部活動だと考えています
- ・保護者への負担が大きくなると思います
- ・先生方の負担が減り良いのではないかと思う
- ・色々な課題があるように思う
- ・専門的な細かい部分の指導があり、学びが生まれる
- ・金銭的な部分が気になる
- ・本校で行うのは良いが、他校が絡んでくるとどうかと思う
- ・指導者の知識や技量、人間性によって考えが変わってくる
- ・指導者への面識があれば信頼できるが、全く知らない方に子供を指導していただくとなると不安を感じる
- ・もっと指導日を増やしてほしい

○実践研究【 剣道 】

種 目：剣道

参加人数：16名

指導者名：河野 亮

学校顧問名：大塚健太

部活動の頻度：平日4日 休日1日

部費の負担：なし

【活動目標】

- ・剣道の理念（剣の理法の修練による人間形成の道である）を重んじ、心身ともに鍛えていくだけでなく、あくまで人間形成のための活動である
- ・令和4年度目標「気努愛楽」のもと、稽古に励んでいる
- ・相手を敬うだけでなく、自分自身も大切にできる
- ・物事を最後まで取り組むことができる

○活動内容

1 主な活動時間

土曜日 8時30分練習開始 11時終了

2 活動場所

楡形中学校 武道館 剣道場

3 指導の工夫

- ・剣道の理念のもと、稽古そのものを人間形成の道ととらえ、互いに尊重しあうよう活動を行う
- ・気剣体の中でも、“気”に重点を置き、剣道における発声の大切さから指導を行う
- ・説明する際には必ず指導者自らも取り組むことで、生徒たちの模範となっている
- ・地稽古（立ち合いの稽古）の際には、指導者も相手をし、それぞれの生徒に合わせたレベルで生徒の実力を引き出すように指導する
- ・指導者としての立場だけでなく、“父”としての目線からも生徒の指導にあたる

4 学校との連携

- ・学校顧問との連携をし、生徒の個性や性格を把握し、それぞれの生徒に合わせた指導を行う
- ・剣道経験のある学校顧問（大塚）不在の際は、該当顧問と連絡をし、練習メニューを決める

5 成果

（顧問）

- ・指導者と稽古することで様々な人と対処する力が生徒についた
- ・顧問が急に部活に行けなかった際に指導していただけて助かった
- ・段位を持つ指導者と稽古できることに喜びを得ている
- ・指導者が学校や部としての指導方針に深く共感していただいているために生徒をととても良い方向に導いてくれている

（指導者）

- ・顧問と連携し、平日には出来ない内容の濃い部活動ができた

（生徒）

- ・指導者がたくさんいることで新しい知識が増える
- ・多くの指導者から意見を聞くことができた

（保護者）

- ・顧問と指導者から違う視点での指導を受け、子供が喜んでいて
- ・顧問、指導者とそれぞれの良い指導が受けられた

6 課題

（顧問）

- ・指導者の権限がもう少しあると様々な面で助かる
- ・顧問にも剣道経験があり、平日と休日の差をあまり感じさせることができていない

（指導者）

- ・休日部活動の参加人数が少ないのでもう少し参加してもらえるような工夫をしたい

7 今後の方向性について

（生徒）

- ・平日は先生、休日は地域指導者から多くを吸収できると思う
- ・指導方法が変わったときについていけるかが心配

（保護者）

- ・移行する事でのメリット、デメリットがわからない
- ・学校以外のつながりが広がり良い経験となるが、子供が心身ともに疲れてしまうことが心配
- ・休日に先生方が休めると思う

○実践研究【弓道】

種 目：弓道

参加人数：24名

指導者名：大和田輝哉

学校顧問名：小林宏臣 高橋章子

部活動の頻度：平日4日（月曜日オフ）、土曜日3時間

【活動目標】

- ・県大会アベック優勝

○活動内容

1 主な活動時間

土曜日 8:00開始 11:00終了

2 活動場所

楡形中学校弓道場

3 指導の工夫

- ・指導者と顧問が連携し、技術面、精神面で指導を行う

4 学校との連携

- ・必要な情報交換は行う
- ・情報共有はできているが継続性が大切だと思う

5 成果

(顧問)

- ・一人一人伸び伸びと弓道に打ち込むことができている
- ・人間性がとても優れた指導者で安心して弓道に打ち込めているようである
- ・専門的な指導を受けられるので練習にメリハリが生まれる

(指導者)

- ・安全第一で正しい弓道（体配と射技）を学ぶことができる

(生徒)

- ・技術が高まったと思えた
- ・的確な指導があり、良かった
- ・弓道の知識が増えたと感じる

(保護者)

- ・専門性が高い方に指導いただけることがありがたい
- ・顧問と指導者がいることで指導が行き届いている
- ・いつもより指導が行き届いていた
- ・より専門的なことが学べたと子供が喜んでいて

6 課題

(顧問)

- ・特になし

(指導者)

- ・平日部活動と休日部活動で一貫性のある指導
- ・毎週の休日部活動に参加できなかった
- ・外部コーチの複数人対応も検討が必要

(生徒)

- ・普段の練習と違いを感じない

(保護者)

- ・前年度の指導者と流派が違い、教え方や所作が変わった

7 今後の方向性について

(生徒)

- ・先生との接点がなくなるのは残念だが、良い指導をしていただければ良いと思う
- ・地域移行は学校の部活動としての活動が減ってしまう
- ・部活動が習い事のようになるのは嫌と感じる
- ・部活動は学校の活動であってほしい
- ・多くの方からたくさん吸収したい
- ・部活動は部活動、習い事は習い事で違うと思う
- ・地域とのつながりを作ることができる

(保護者)

- ・先生との接点がなくなるのは残念だが、良い指導をしていただければ良いと思う
- ・地域の方々から学べる機会になる
- ・何か問題が起きた際にどのように対応していくのか
- ・先生方の負担が減れば良いと思う
- ・技能向上につながるのであれば良いと思う
- ・保護者への負担がどの程度増えるかがわからない
- ・先生方の労働環境の改善、専門的指導での技術向上に期待
- ・部活動は先生が携わっている部分に安心感がある
- ・学校関係者だけでなく、外部の方々との関わりは刺激があり色々経験できる
- ・来年も継続してもらいたい

10 実践研究のまとめ

令和3・4年度の2年間に実践研究をさせていただき、それぞれの部活動で「専門的な技術が学べる」「質の高い練習ができる」「刺激をとんでも受ける」「新しい視点からの指導」などの、多くのメリットを感じることができました。それは依頼した地域運動部活動指導者の方々が、学校や顧問の目標や指導方針を理解していただき、学校に寄り添った指導をしていただいたおかげであると考えます。顧問と地域運動部活動指導者との間でコミュニケーションをしっかりととることで、メリットを最大限に活用できたと考えます。

しかし、地域運動部活動指導者が土日に指導に来ていただく場合には、常に学校の顧問と一緒に指導をしていたため、休日部活動の地域移行に向けた目的の一つである教職員の負担軽減にまではつながりませんでした。それは、顧問・生徒・保護者・地域運動部活動指導者のすべての立場から出ている不安が解消できていないためです。「週に一度だけではコミュニケーション不足」「部の管理」「保護者との対応」「けがや事故などの対応」「学校の伝統の継承」など、今後の本格実施に向けて検討していかなければならない課題があります。

国が示している移行の形には3つありますが、現在の検証では教職員が何らかの形で生徒に関わっていきながら、より良い形態を模索していくことがよいと考えます。保護者の不安の中には、学校の部活動から独立して地域運動部活動指導者だけになった場合、その指導者の資質や指導方針に対してや、保護者の経済的な負担があります。

メリットを最大限に生かしながら、それぞれの立場からの不安を解消していくことが、今後の課題であると考えます。学校部活動が長年培ってきた「教育的な意義」を失うことなく、生徒にとって

より望ましい活動の在り方を構築していく必要があります。国や県の方向性を確認しながら、各市町村において組織づくりを含めより一層の検討が必要だと考えます。この2年間の実践研究がその一助になればと思います。

